

日本衛星ビジネス協会は、平成 27 年 11 月 24 日（火）、気象衛星センターにて今年度第 2 回目となる施設見学会を開催しました。当日は学生を含む総勢約 40 名が参加し、気象衛星及び気象衛星センター業務概要の研修や、運用室等の見学を行いました。



我が国の静止気象衛星「ひまわり」は、初号機が昭和 52 年に打ち上げられ、現在は 7 号機と 8 号機が運用しております。気象衛星センターは、東京都清瀬市に所在し、昭和 52 年、気象衛星の運用等を目的として、当時の気象通信所を改組して設置されました。

センター内の展示室では、「ひまわり」初号機の模型をはじめ、気象観測の歴史や気象衛星センター立上げ当時の様子がわかる、さまざま展示物を見学することが出来ます。



まず始めに、気象衛星業務及び「ひまわり 8 号」についてご説明を頂きました。

気象衛星センターの概要や業務についてご説明して頂く中で、国際協力が進められていることが特に印象的でした。気象観測においては、世界気象機関（WMO）加盟各国との協力による世界気象監視計画が推進されており、我が国の「ひまわり」も、この観測網の一翼を担い、世界の気象業務に大きく貢献しているそうです。



「ひまわり 8 号による初画像」  
（気象庁ホームページより）

続いて、「ひまわり 8 号」についてご紹介頂きました。「ひまわり 8 号」は、平成 26 年に打ち上げられた最新の気象観測衛星です。「ひまわり 8 号」の特徴として、分解能の向上や観測時間の短縮、カラー化、観測バンドの増加により火山ガスやオゾン等が見えるようになる等、観測能力が大きく向上した点について、分かり易くご説明頂きました。

また、「ひまわり」により得られたデータが、天気予報をはじめ、防災や環境監視、交通安全等、幅広い分野で役立てられていることについて、非常に興味深いお話を伺うことができました。

その後、実際に気象衛星の運用を行っている運用室を見学させて頂きました。滑らかに動

く雲の様子や、普段体験する機会のない様々な設備について、実際に運用している専門家の方からご説明を頂き、参加者からも多くの質問が寄せられました。



最後に屋上にある「ひまわりキャスト」用アンテナを見学させて頂きました。「ひまわりキャスト」は、「ひまわり」の観測データを、民間の通信衛星を介して各国の気象水文機関や研究機関等に配信するサービスです。



今回の施設見学会では、気象業務に関わる楽しい余談も交えながらの丁寧かつ分かり易いご説明に加え、実際の運用現場も見学させて頂き、大変充実した見学会となりました。また、普段の生活で目にすることの多い天気予報や防災・環境監視・交通安全など、国民生活に不可欠な役割を担い、国際協力にも貢献し、衛星事業の黎明期より着実に進化を続ける本事業は、衛星ビジネスの成功モデルとして、学ぶべき点が多い事業であることを改めて感じました。

ご多忙の中、施設見学会を受け入れて頂きました気象衛星センターの皆様、本当にありがとうございました。